

患者さんから信頼される！ 治る顎関節症のための外さない診断と治療

日本歯科大学附属病院 総合診療科 准教授
同病院 顎関節症診療センター センター長 原 節 宏



顎関節症は時間の経過に伴って症状が自然消退する特徴があります。たとえば、スプリント装着後に症状が治まったケースは、スプリントが効いたので症状が治まったのか、あるいはスプリントを入れる、入れないは関係なく自然消退しただけなのか、真相は不明のまま「症状が治まったのだからよしとしましょう」と不問にしているケースも少なくないと思います。アプライアンス（スプリント）装着後に治った顎関節症は、どのようにスプリントがはたらいた結果なのか、そのメカニズムに関しては、いままも解明されていない現状があります。

顎関節症にスプリントを用いる歴史は古く、安全で効果が高い保存療法の一つであるという評価を聞かれたことがあると思われます。しかし、その高評価は1990年代までのことで、2000年頃を境に、これまでの研究報告の再検討が行われるようになると、高かった評価に疑問を呈するレビュー論文が報告されるようになりました。ここ10年では、「スプリント療法は効果があいまい」、「他の治療法より劣る」、「意図せずに咬合関係が変わる」といった否定的な評価が散見されるようになってきました。一方で、スプリント装着後に顎関節症の症状が緩和、消退するという所見は、多くの開業歯科医が経験していることでもあります。

顎関節症は1つの原因では説明ができない多因子疾患といわれて20数年が経ちました。そして、専門学会のガイドライン等では、素因、誘因、永続因子のそれぞれに対処していく治療法が推奨されています。その結果、大きめの病院では、担当となった歯科医の専門分野が優先されて、スプリント療法、薬物療法、理学療法、運動療法、リスク因子除去療法、認知行動療法、注射療法や手術療法、さらに咬合変更療法など、治療法の選択が多岐にわたるようになり、長期化症例に対しては、あれもこれも、さまざまな治療法を試してみるといった状況に陥るケースも存在しています。一方、人的にも設備的にも、規模が限られる開業歯科医院にとっては、比較的安全性が高く、やってみないとわからないが、一部の患者には効果が期待でき、歯科保険に収載されているスプリント療法を第一選択とせざるを得ないという画一的な選択をされている方も多いと思われます。その中で、咀嚼筋のマッサージやストレッチなどのリハビリテーション要素の強い理学療法や運動療法が、顎関節症の症状に対する治療効果が高いという話を聞かれたことがあるのではないのでしょうか。

略 歴

はら せつひろ

- 1980年 慶應義塾高等学校 卒業
- 1986年 日本歯科大学歯学部 卒業
- 1990年 日本歯科大学大学院 修了（臨床系補綴学）

職 歴

- 1990年 日本歯科大学歯学部 歯科補綴学教室第2講座 助手
- 2001年 日本歯科大学附属病院総合診療科 講師・医長
- 2002～04年
デンマーク王立オーフス大学歯学部
臨床口腔生理学教室 客員講師
- 2005年 附属病院 総合診療科 准教授
顎関節症診療センター センター長
- 2016年 附属病院 口腔顔面痛センター併任
現在に至る

学会活動ほか

- 日本顎関節学会
- 日本口腔顔面痛学会（評議員・指導医）
- 日本口腔リハビリテーション学会（評議員・指導医）
- 日本補綴歯科学会（指導医）
- ジャパンオーラルヘルス学会（理事）
- 日本老年歯科医学会・日本歯科心身医学会
- 日本認知症予防学会・日本顎変形症学会
- 理学療法科学学会・日本統合医療学会 ほか

書籍等

- 原 節宏（共訳）：Okeson JP, ベルの口腔顔面痛, クインテッセンス出版, 1998.
- 原 節宏（共著）：日本顎関節学会学術用語集 第1版, クインテッセンス出版, 2017.
- 原 節宏（単著）：あごの痛みが消える！筋膜スマートリリース, 角川書店, 2020. ほか

今回の講演では、不明な点の多い、顎関節症に対するスプリントの効果を再検討したいと思います。さらに、スプリントの効果が期待できる症例には、どのようにそれを見極めて対応すべきか、スプリントを使わない選択ではどのようなコンセプトで対処していくのかという点にフォーカスして、どのタイプの患者さんにも使える、的を外さない顎関節症の診断と治療について解説したいと思います。

キーワード：顎関節症、理学療法、アプライアンス療法、筋筋膜痛